



## 第23回 ICOM 大会 (ICOM Rio 2013) 参加報告

ICOM日本委員会事務局

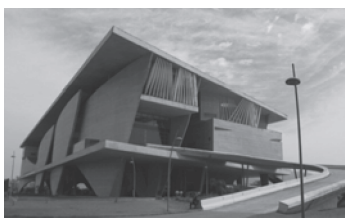
ICOM (International Council of Museums ; 国際博物館会議) の第23回大会が、ブラジル・リオデジャネイロで8月10日から8日間にわたって開催された。この大会についてはICOM日本委員会として報告書を作成する予定であるが、以下、速報として簡単にご紹介させていただく。

このたびの第23回大会「ICOM Rio 2013」は、「Museum (Memory + Creativity) = Social Change」をテーマとして開催され、世界103カ国から約2,000人が参加し、諮問委員会や総会、基調講演といった全体会合と、約30の国際委員会による個別の会合が行われた。会場となったのは、リオデジャネイロ郊外のパーハ地区に本年新たに完成したCidade das Artes (芸術の都市) である。日本からはICOM日本委員長である青木保国立新美術館長や日本博物館協会会長の銭谷眞美東京国立博物館長をはじめ約30名が参加し、諮問委員会や総会への出席や、国際委員会での事例発表等を行った。

大会に併せて行われたICOMの執行役員選挙では、現会長のドイツ人Dr. Hans-Martin Hintz氏が再選された。各国際委員会でもboard member (運営委員) の選挙が行われ、日本からは、水嶋英治氏や栗原祐司氏など4名の会員が新たに運営委員に選出された。



今大会で選出された ICOM の執行役員



大会会場となったCidade das Artesの外観



見本市に出展した「JAPAN」ブース

また、8月12日から15日まで開催されたMuseum Trade Fair(見本市)では、ICOM本部をはじめとして約20の博物館関係体によるブース出展が行われた。今回初めての試みであったが、日本からも、日本博物館協会が中心となって「Japan」ブースを出展した。費用の面では、公益財団法人カメイ社会教育振興財団から助成を得ることができ、また、(株)丹青社、(株)トータルメディア開発研究所、(株)乃村工藝社の3社から協賛・協力をいただくことができた。現地では、日本人参加者の協力を得て、国内の博物館・美術館のポストカードや外国語リーフレット、日本博物館協会の英語パンフレットを配布したほか、ICOM日本委員会として大会招致を模索している旨のリーフレット配布を行った。リオデジャネイロの総領事館からお借りしたモニターで日本の博物館のDVD映像を流したり、抹茶の試飲サービスを行ったこともあって、大勢の方々に訪れていただき、好評を博した。今回のICOM大会を通し、世界の博物館関係者に日本の存在感を示すという所期の目的は、ある程度達成されたものと思われる。現在、ICOM日本委員会において検討している日本への大会招致についても、多くの示唆を得ることができた大会であった。

ICOMとは?

ICOMは、世界の博物館の進歩発展のために尽くす国際的な専門組織で、歴史や美術、考古学、民俗、科学、技術、自然史などの博物館関係者が会員として参加している。ユネスコと協力関係にあり、国連の経済社会委員会の顧問でもある非政府組織で、2013年2月現在で137の国や地域が加盟しており、個人や団体を合わせた会員数は約3万となっている。ICOMの大会は、1948年にパリで第1回が開催されて以降、1950年から3年ごとに開催されており、前回は2010年11月に中国・上海で開催され、また、次回は2016年7月にイタリア・ミラノの開催が決まっている。ICOM日本委員会では、大会の日本招致に向けて取り組む予定である。(※ ICOMに関する情報は、ICOM日本委員会のウェブサイト <http://www.j-muse.or.jp/icom/ja/> にてご覧いただけます。)